

大しめ縄かけ替え

出雲大社神楽殿にかかる大しめ縄。出雲大社の代名詞といつても過言ではない大きくなしめ縄は、飯南町で制作されています。

平成30年7月17日、神楽殿にその大しめ縄が奉納されました。

伝統の技を未来へ

出雲大社の大しめ縄と

飯南町

そのかかわりは古く、昭和30年代、出雲大社分院が飯南町（花栗）にあつたことが縁で、住民や信者らによって大しめ縄の制作・奉納が始まりました。

昭和56年には、出雲大社の新しい神楽殿（現在の神楽殿）が完成。その際、神楽殿の大きさに合わせた巨大なしめ縄の制作の依頼があり、日本最大級の大しめ縄の奉納が行われるようになります。

今年、出雲大社へ奉納された大しめ縄は、新神楽殿完成後7回目。「飯南町注連縄企業組合」がその制作を担いました。

大しめ縄の制作
大しめ縄の制作は材料となるワラの調達から始まります。今回奉納された大しめ縄は、長さ13・6m、重さ5・2トン。制作には大量のワラと、気の遠くなるような地道な作業が必要です。

昨年5月、大しめ縄制作に使用する赤穂モチの田植えから作業は始まり、刈り取り、乾燥と進み、本年3月17日に安全祈願祭、3月20日には、大しめ縄をつくる「つり木」に使用するヒノキを伐採しました。

4月に入ると制作作業は本格化。ブルーシートに描かれた設計図を基に、しめ縄の表面に巻くコモを編んで繋げていきます。次に、直径約1・2mの芯と

なる部分を作り、最後にコモを巻きます。これを2本作り、燃り合わせます。しめ縄の下側に取り付ける「しめの子」や、「つり木」と本体に掛ける「飾り縄」なども作ります。

燃り合わせ、奉納

7月15日に、制作の最終段階、燃り合わせ作業が大しめなわ創作館で行われました。当日は約100人が作業に携わり、約1000人の観覧者が来場。重さ2トン以上の大なわをトレーンで持ち上げ、もう片方の大なわを人力で転がして燃り合せます。朝9時から始まった作業、トレーラーへの積み込みが終わったのは、辺りが暗くなつ

いました。
注連縄企業組合でしめ縄制作の責任者「棟梁」を務める石橋真治さんは、「棟梁としては、平成24年に続いて2回目の奉納で、多少気持ちの余裕はあつたが、一発勝負のためプレッシャーは大きかった。今は無事に奉納できてホッとしている」と話していました。

しめ縄づくりの「縁」

「出雲大社の大しめ縄は、日本最大級」ということもあるが、60数年前、古くからの『縁』で制作を担っているところが大きい。大きさ以上に、特別な想いがある」と話すのは企業組合専務理事の那須久司さん。

平成25年に誕生した飯南町注連縄企業組合では、現在、全

後継者を育てる

大しめ縄づくりは、出雲大社の大しめ縄に限らず、経験が必要だと思います。「技術を伝承する機会、作るところを見る機会がどれだけあるか。完成形をイメージして、自分ならどうするか、責任をもって見て作業することが重要だ」と石橋棟梁。

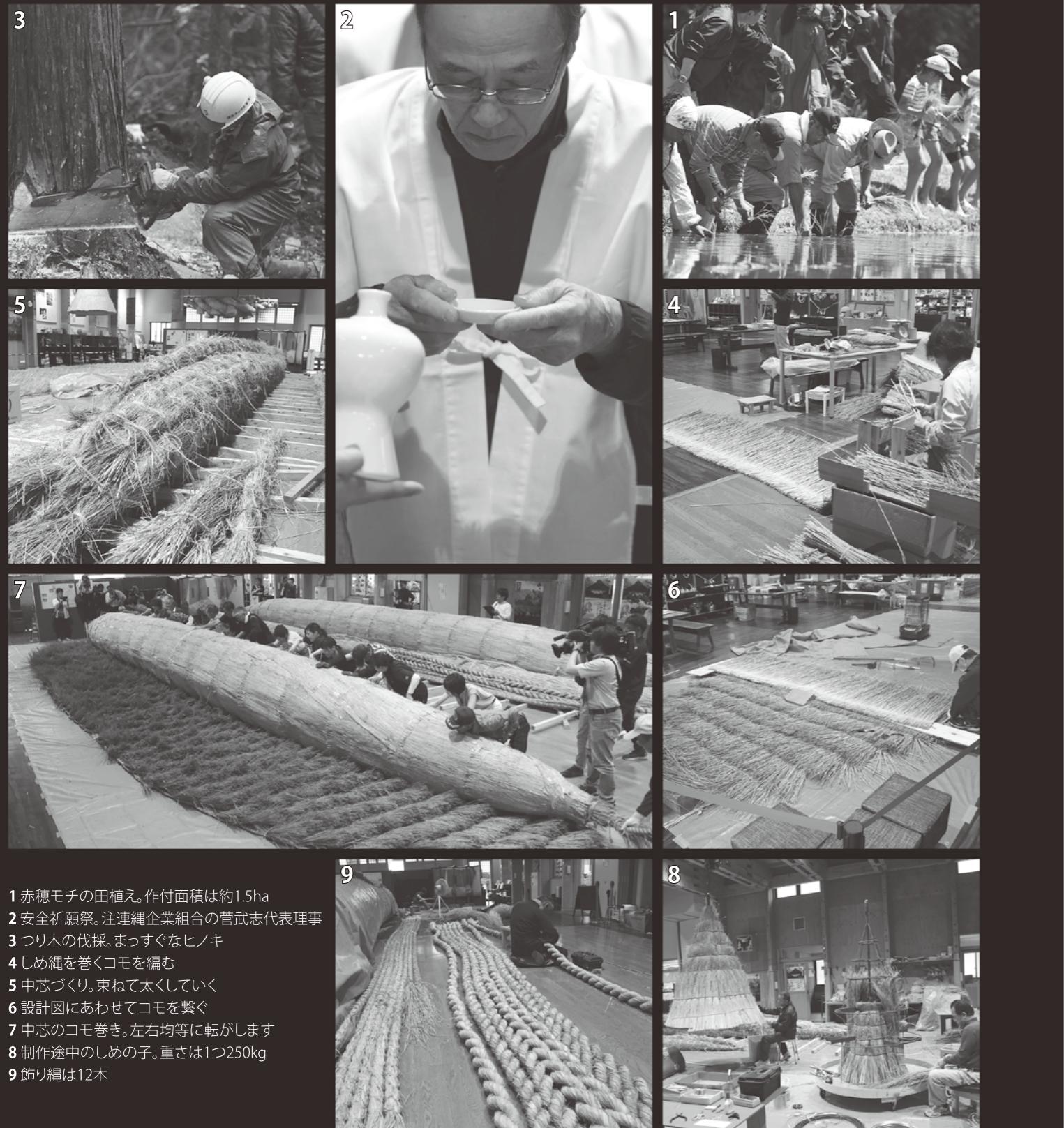
全国各地の神社などに奉納されることで、しめ縄制作に携わることで、全国の制作に携わる人とのつながりが生まれ広がっていく「多くの方との出会いをいたいでいる」と石橋棟梁は語ります。

た夜8時前でした。

17日は、いよいよ奉納です。朝8時に大しめ縄をのせたトレーが飯南町を出発。現地では、多くの人が見守る中、古い大しめ縄の取り外し、しめの子と一緒に神楽殿に取り付けられ、慎重に神楽殿に見守つてました。

全ての作業が完了した午後4時半。燃り合わせを見守つていた参拝者から大きな拍手が起きました。

4時半。燃り合わせを見守つていた参拝者から大きな拍手が起きました。



- 1 赤穂モチの田植え。作付面積は約1.5ha
- 2 安全祈願祭。注連縄企業組合の菅武志代表理事
- 3 つり木の伐採。まっすぐなヒノキ
- 4 細め縄を巻くコモを編む
- 5 中芯づくり。束ねて太くしていく
- 6 設計図にあわせてコモを繋ぐ
- 7 中芯のコモ巻き。左右均等に転がします
- 8 制作途中のしめの子。重さは1つ250kg
- 9 飾り縄は12本



霧生友孝さん
平成27年4月から平成30年3月まで地域おこし協力隊として大しめなわ創作館で勤務。4月から企業組合の契約社員。今回の大しめ縄制作では、かざり縄の制作を主に担当。

そういう中、しめ縄制作の伝統技術に魅力を感じ、その技術を学ぼうと、地域おこし協力隊として飯南町に移住された皆さんに、しめ縄制作に対する想いを聞きました。



棟梁を務めた石橋真治さん

前職は営業職として、作られたものを紹介する側、今は作る側で環境が違います。それが楽しいです。それと、システムツクな産業ではない、生活の一部にしめ縄づくりがあるところに魅力を感じています。

引き続きしめなわ館で働くことができて嬉しいです。これからは、飯南町で暮らしている人

全国各地の神社などに奉納されることで、しめ縄制作に携わることで、全国の制作に携わる人とのつながりが生まれ広がっていく「多くの方との出会いをいたいでいる」と石橋棟梁は語ります。